

25日 土曜

I サムエル



17:12 さて、ダビデは、ユダのベツレヘム出身の、エッサイという名のエフラテ人の息子であった。エッサイには八人の息子がいた。この人はサウルの時代には、年をとって老人になっていた。

17:13 エッサイの上の三人の息子たちは、サウルに従って戦いに出ていた。戦いに行っていた三人の息子の名は、長男エリアブ、次男アビナダブ、三男シャンマであった。

17:14 ダビデは末っ子で、上の三人がサウルに従って出ていたのである。

17:15 ダビデは、サウルのところへ行ったり、帰ったりしていた。ベツレヘムの父の羊を世話するためであった。

17:16 例のペリシテ人は、四十日間、朝早くと夕暮れに出て来て立ち構えた。

17:17 エッサイは息子ダビデに言った。「さあ、兄さんたちのために、この炒り麦一エバと、このパン十個を取り、兄さんたちの陣営に急いで持って行きなさい。

17:18 この十個のチーズは千人隊の長に届け、兄さんたちの安否を確認しなさい。そして、しるしを持って来なさい。

17:19 サウルと兄さんたち、それにイスラエルの人はみな、エラの谷でペリシテ人と戦っているから。」

17:20 ダビデは翌朝早く、羊を番人に預け、エッサイが命じたとおりに、言われた物を持って出かけた。彼が野営地に来ると、軍勢はときをあげて陣地に向かうところであった。

17:21 イスラエル人とペリシテ人は、向かい合って陣を敷いていた。

17:22 ダビデは、父からことづかった物を武器を守る者に預け、陣地に走って来て、兄たちに安否を尋ねた。

17:23 ダビデが彼らと話していると、なんと、そのとき、あの代表戦士が、ペリシテ人の陣地から上って来た。ガテ出身のゴリヤテという名のペリシテ人であった。彼は前と同じことを語った。ダビデはこれを聞いた。

17:24 イスラエルの人はみな、この男を見たとき、彼の前から逃げ、非常に恐れた。

17:25 イスラエルの人々は言った。「この上って来た男を見たか。イスラエルをそしるために上って来たのだ。あれを討ち取る者がいれば、王はその人を大いに富ませ、その人に自分の娘を与え、その父の家にイスラエルでは何も義務を負わせないそうだ。」

17:26 ダビデは、そばに立っている人たちに言った。「このペリシテ人を討ち取って、イスラエルの恥辱を取り除く者には、どうされるのですか。この無割礼のペリシテ人は何なのですか。生ける神の陣をそしるとは。」

17:27 兵たちは、先のことばのように、彼を討ち取った者には、これこれをされる、と言った。

キリストのひな型として救い主のことを指し示すために、王とされたダビデの若いころの性格が表されています。彼は末っ子であって、家族からは（周囲の誰からも）期待されるような存在ではありませんでした。

しかし父には忠実であり、兄たちによく仕える人でした。また何よりも純朴な信仰を持っていました。聖なる神が「なぶられ」ることに我慢できないほど神を愛し慕い、また神に敵対する者はだ

れであろうと「何ものですか」と、全く恐れない心を持っていました。つまり神に従う者は勝利で、反逆するものは敗北という純真な信仰を持っていたのです。

そしてその信仰にこそ勝利の可能性があったのです。イスラエルの大人たちは「非常に恐れ」ていましたから、彼らには勝利の可能性がなかったわけですが、知恵や見通しも大切ですが、それ以上に生ける神の力を純粋に信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

